
記憶の欠片

篠崎 雪夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

記憶の欠片

【Zコード】

N9425M

【作者名】

篠崎 雪夜

【あらすじ】

一話完結型の長編連載です。

……生まれたときから、“私”は他の同年代の誰よりも特別な人間で、同年代の誰よりもにおかしかった。

「あなたは未来の玄霧家くろきつを背負うかもしれない人。

だから今日から毎日、女の子として女の子と過ぐし、女性らしい振る舞いを学びなさい。」

……“女の子らしく”。その言葉はまるで呪いのようだった。

玄霧の家では、男子は子供の間ま 正確には、小学校から中学校までの6年間 を、女の服を着て、女の子と共に暮らさなければならぬらしい。本人の意思など関係無しに、だ。

女形舞踊を学ぶための、玄霧家の家訓ミナセだとか。

だから“私”に与えられた名前は水無瀬。女の子に限りなく近い、女の子でも違和感のない名前。

同年代の女の子たちから「水無瀬ちゃん」と呼ばれるたびに“私”はイライラして、何度も母や父に怒りをぶつけたい気持ちに駆られた。

女の子とどうやって過ごしていくべきかわからない。
男の子とどうやって対応していくべきかわからない。
男の子とどうやって対応していくべきかわからない。

“私”は男にも女にもなりきれない半端な存在で、それを止めたいと言いくつも勇気もない。

それはつまり、魂のないお人形と何にも変わらないわけで。

“私”は何のために生きているの。

どうして、もつと普通に過ごしていくことができないの。

問い合わせに答えてくれる人間なんて、いるはずもなく。
ただ、意味のない時間だけが過ぎていく。

「今日は、予告していたとおり、垂直跳びのテストをします。」

体育の授業だって、女子の平均程度の力しか出せない。……女の子らしく見えないから。

もっと、思いっきり跳んでみたい。

もっと、男の子たちと普通に話をしたい。

どうせ、大人になつたら今みたいに踊れなくなるんだから

ら

そんな、不満ばかりが募つていく頃だつた。

彼女に あおさきあかね 蒼崎茜に出会つたのは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9425m/>

記憶の欠片

2010年10月9日23時53分発行